

# 安全の手引き

在シカゴ日本国総領事館  
(令和 7 年)

## 目次

### はじめに

#### I 治安情勢

- 1 シカゴ市
- 2 シカゴ市近郊の町
- 3 管轄各州（全 10 州）

#### II 安全対策

- 1 安全対策の基本的な心構え
- 2 防犯のための具体的注意事項
- 3 交通事故対策
- 4 法律・習慣の違いによるトラブル

#### III テロ、大規模自然災害等緊急事態発生時の対応

- 1 在留届の提出
- 2 平素の準備
- 3 発生時の措置
- 4 テロ関係
- 5 たびレジ
- 6 シカゴ地域緊急連絡先

### 別紙 緊急事態に備えてのチェックリスト

#### はじめに

近年、日本人が事件・事故や自然災害に巻き込まれるケースが後を絶ちません。犯罪や交通事故は日々発生しているほか、テロや巨大ハリケーンなど米国においても一度に多数の死傷者が出る事態が発生していることから、安全確保は海外で生活する誰もが検討しなければならない重要な課題です。

事件・事故等に巻き込まれないためには、日頃から安全情報に関心を持ち地域の治安情勢を把握の上、安全対策の基本的な留意事項を守って行動することが大切です。

この手引きが、当館管轄区域内に居住する在留邦人の皆様の安全な海外生活の一助となれば幸いです。

## I 治安情勢

### 1 シカゴ市

シカゴ市警察の発表によると、2024 年の同市の主要犯罪(殺人、不同意性交、強盗、重傷害、侵入窃盗、窃盗、車両盗)の発生件数は合計 68,179 件(前年比で約 12%の減少)となっており、治安は改善傾向にあります。

拳銃の発砲事件は 2,283 件(前年比で約 7%減少)と減少傾向ですが、連日、発砲事件が報道されており、2024 年 9 月には、シカゴ市内とシカゴオヘア国際空港を結ぶ地下鉄(C T Aブルーライン)車内において、4 人が銃で殺害される事件が発生するなど、「安全」とは言いがたい状況にあります。

#### 過去 5 年間のシカゴ市内における主要犯罪の発生件数

(赤字は前年と比較し増加を示す)

罪種	2024 年	2023 年	2022 年	2021 年	2020 年
凶悪犯罪合計	18,327	19,963	17,599	17,215	16,822
殺人	573	620	709	804	778
不同意性交	2,069	2,093	2,037	2,073	1,628
強盗	9,155	11,045	8,982	7,908	7,859
傷害	6,530	6,205	5,871	6,430	6,557
財産犯罪合計	49,852	57,486	49,140	30,238	29,359
侵入窃盗	7,680	7,478	7,597	6,669	8,756
窃盗	20,357	20,751	20,173	12,979	10,693
車両盗	21,815	29,257	21,370	10,590	9,910
主要犯罪の合計	68,179	77,449	66,739	47,453	46,181

シカゴ市(約 275 万人)と人口規模がほぼ同じ自治体(広島県・約 276 万人)との比較(2024 年)

罪種	シカゴ市	広島県	倍率
殺人	573	22	26 倍
不同意性交	2,069	71	29 倍
強盗	9,155	25	366 倍
傷害	6,530	508	13 倍
侵入窃盗	7,680	581	13 倍
車両盗(※)	21,815	212	103 倍

※ 車両盗には、「自転車盗」は含みません。

## 2 シカゴ市近郊の町

シカゴ市の北西部に位置しているシャンバーグ、アーリントンハイツ、ホフマンエステーツ等には、在留邦人が多く居住しており、日系の企業事務所、スーパー、飲食店が所在する地域です。

地元警察からはホームページを通じて、車上狙いや部品盗、家人不在時の侵入窃盗などに対する注意喚起が行われています。これらの地域はシカゴ市に比べて比較的に治安が良いとされていますが、たとえ自宅敷地内であっても車両内には貴重品を置かず、ドアは確実に施錠し、できるだけ明るく見通しの良い場所に駐車することを心がけると共に、頼んだ覚えのない業者などを安易に室内に招き入れることがないように十分注意して下さい。

## 3 管轄内の都市の状況

管轄内の主要都市の内、いくつかの都市において 2024 年の犯罪統計が公表されています。各都市とも本邦と比べ人口当たりの犯罪発生率は高めとなっておりますので、引き続き防犯には十分にご注意下さい

州、都市	年	殺人	強姦等	強盗	傷害	侵入窃盗	窃盗	車両盗	合計
ウィスコンシン州 ミルウォーキー	2023	172	486	1,932	6,908	2,421	8,078	6,276	26,273
	2024	132	467	1,949	6,566	2,267	7,549	6,380	19,560
ミズーリ州 セントルイス	2023	158	191	730	2,951	2,089	9,556	6,194	21,869
	2024	200	151	803	3,058	2,306	11,150	7,294	17,668
ミズーリ州 カンザスシティ	2023	181	396	1,120	5,708	2,900	15,083	6,102	31,490
	2024	167	378	1,118	5,890	2,896	15,497	6,230	25,946
カンザス州 カンザスシティ	2023	23	82	212	268	1,403	5,650	--	7,638
	2024	22	96	153	190	1,391	4,796	677	6,648
ネブラスカ州 オマハ	2023	29	241	310	1,610	1,308	11,589	5,675	20,762
	2024	29	299	336	2,054	1,256	12,259	3,359	16,233
ノースダコタ州 ファーゴ	2023	2	77	85	394	841	3,041	461	4,901
	2024	5	145	117	522	1,075	3,623	689	5,487
イリノイ州 スプリングフィールド	2023	5	120	138	622	1,244	3,647	569	6,345
	2024	7	99	150	641	928	3,379	512	5,204
インディアナ州 フォートウェイン	2023	26	123	566	423	566	4,881	810	7,395
	2024	20	121	189	376	592	5,206	608	7,112
ミネソタ州 ミネアポリス	2023	73	837	1,447	2,955	2,614	12,189	7,869	27,984
	2024	80	337	1,822	3,054	2,577	14,095	6,212	28,177

## II 安全対策

### 1 安全対策の基本的心構え

- (1) 自分と家族の安全は、まず自分たち自身で守るという意識を持つ。
- (2) 常に最悪の事態を想定して準備を行う。
- (3) 住居の安全を確保することは生活の基礎となるため、ホテル、住居選びは安全性を最優先する。
- (4) 普段から、隣人やコミュニティ等と良好な人間関係を築くように努め、情報交換を行う。
- (5) 新聞、テレビ、インターネット等により、現在どのような犯罪が発生しているのか治安情報の収集に努める。
- (6) 安全のための3原則
  - ア 目立たない：  
場違いな服装、装飾品、高級車を避ける。カメラを首から下げたり、地図を広げて歩いたりして、いかにも旅行者という印象を与えない。また、高価なスマートフォンを無防備な状態で操作しない。
  - イ 行動を予知されない：  
違う道、違う時間を選んで通勤する等、行動をパターン化しない。
  - ウ 用心を怠らない：  
慣れた頃が要注意

### 2 防犯のための具体的注意事項

#### (1) 住居の防犯対策

##### ア 居住地域の選定

一般的には、次のような地域の治安はあまりよくないことが多いので、注意してください。

- 昼間なのに、大人達が仕事もしないでたむろしている。
- 商店の入口や窓が鉄格子で頑丈に守られている。
- 道路にゴミが散乱しており、壁に落書きが多い。
- 古くて傷や損傷が多い車が多く路上に駐車されている。

##### イ 家の選定

次のような家は、防犯上安全ではない可能性がありますので、注意してください。

- 表通りから見えない家。
- 塀や樹木等により外部からの死角が多い家。
- 夜間、周辺の照明が十分でなく、周囲が暗い家。
- アパート、マンションの場合、出入口に警備員などがおらず、住民以外が自由に出入りできる物件。

##### ウ 平素の防犯措置

- 出入口や窓は、可能であれば複数の錠や鎖等で強化する。
- 来客があっても、すぐにドアを開けない。必ずのぞき穴から相手を確認する。

子供にもその旨を言い聞かせる。

- 玄関や庭先には、十分な照明を取り付ける。人や物の動きに反応するセンサー式ライトは防犯上有効である。
- 不在と悟られないように、夜間、タイマーにより家屋の照明を点灯させる等の工夫をする。
- 長期間留守にする際は、信用のおける近隣の人に注意を払ってもらうようお願いする。また、新聞、郵便物の配達を中断する手続きをするか、信用できる近隣住民に回収をお願いする。
- 旅行前や旅行中に、SNSに旅行先の様子などを載せない。留守であることを広く宣伝しているようなもので、犯罪リスクを高める。
- 見知らぬ者を自宅内に入れない。水道、電気工事などを装い、家に上がり込むケースが多い。頼んだ憶えのないものは断る。
- 貴重品のシリアル番号、型式、写真などは事前に保管しておく。これがないと、警察としても事後の捜査は不可能。パスポートも同様に、関連情報をパスポートとは別に保管しておく。
- 防犯にはきちんとした機材を自宅に設置しておく。防犯カメラは4Kのものを設置する。それ以外の仕様では犯人の特定は難しい。できれば画像を30日間保存可能なものを選ぶ。
- 届いた手紙はすみやかに受け取り、郵便ポストに長期間放置することはないようにする。

## (2) 外出時の防犯対策

### ア 貴重品の管理

- 多額の現金は持ち歩かないようにする。
- 現金はできるだけ複数の財布やポケットに分散して持つ。
- 人前でむやみに財布や現金を手にししない。
- パスポートを所持する場合は、体から離さず、常に身に付けるようにする。
- ズボンの後ろポケットに入れた財布はスリの恰好の標的となるので、財布は前ポケット等にしまう。
- ポシェット、リュックサックなどは、気付かないうちに背後からナイフで切られることもあるので、貴重品は入れない。特に人混みの中では体の前に抱えるように所持する。

### イ 移動時

- 深夜、早朝の一人歩きはできるだけ避ける。特に女性は注意。やむを得ず徒歩で外出する場合は、人通りの少ない・街灯のない薄暗い通りは歩かない。
- 犯罪が多発している地域には、たとえ昼間の時間帯で車に乗っていたとしても近づかない。
- 知らない者が呼びかけてきたり、近づいてきたりした場合、一見親切そうな相手でも、警戒を怠らない。スリ集団は、呼びかけて注意を引く者、その隙にスリを行う者などが役割分担して犯行に及ぶ。
- スマートフォン等を使用して音楽を聞きながら、あるいは携帯電話を使用し

て通話やメールしながら歩いているときには、周囲の状況確認がおろそかになり、気がついたときには強盗グループに囲まれたり、ひったくりに遭ったりすることがあるので、十分注意する。

- 電車のドアの脇には座らない。ドアが閉まる間に携帯電話その他の貴重品を奪われる可能性がある。
- 電車に乗る際には先頭車両、バスに乗る際には運転手の近くに可能な限り乗車する。
- タクシーに乗った際には、友人や家族に電話をかけ、タクシーに乗ったこと、これから帰ることなどを伝える。(かけるふりをするだけでも防犯効果がある。)
- 電車、バス、タクシー内では、隙を見せないよう、絶対に眠らない。

#### ウ レストラン、ホテル、空港等

- レストランや空港待合室など公共の場所では、たとえ短時間でも荷物を床や机、椅子などに置いたまま席を離れない。
- 物を売りに来た振りをして貴重品を盗む手口あり、貴重品は常に手元に置いておく。またレストランなどでテーブルの上に携帯電話などを置きっ放し、出しっ放しにしない。
- ホテルのチェックイン等で手荷物を床等に置かざるを得ない場合は、知人に見張りを頼むか、両足で挟むようにして、所在のありかを把握しておく。
- ホテルの自室に客があっても、不用意にドアを開けず、必ずのぞき穴から相手を確認する。
- ホテルに宿泊する際は、宿泊する部屋から一番近い非常口、避難経路を確認しておく。

#### エ 被害に遭ったときは

- 万が一、強盗に遭った場合は絶対に抵抗しない。また、ひったくりに遭った場合も引きずられる危険があるので、抵抗せず荷物から手を離す。犯人は狙った物はなんとしても盗もうとするため、自分の身の安全を第一に考える。
- ジャケットの内ポケットから財布を取り出そうとする等、武器を取り出すと犯人に誤解されるような行動は取らず、現金の位置を示してゆっくり取り出す。
- 強盗等に襲われた場合は、犯人の顔を見ないようにし、素直に物を渡す。犯人の顔を見ると、犯人は警察に通報されると思い、攻撃してくる危険性がある。その上で、服装等記憶に残っている情報を警察に伝える。

### (3) 自動車使用時の防犯対策

#### ア 運転中

- 危険地域を通過する際は、ドアロックを確認し、窓を閉め、中央寄りの車線を通行する。
- 見知らぬ者に停止を求められても、絶対に応じない。
- 自分の車に素性の分からない者の同乗を許可すること及び見知らぬ相手の車両に安易に同乗することは絶対に避ける。
- 信号待ち等で停車中も周囲の状況に注意する。信号待ち中に窓が開いている車を狙う強盗もいる。

- 車線変更、追い越し等は慎重に行う。走行を妨害されたと思い込み逆上するドライバーがいる。銃を所持している者もあり、発砲された例もある。

#### イ 駐車の際

- 駐車する際は、できるだけ明るい場所を選び、人気のない暗い場所は避ける。可能であれば路上駐車を避け、係員がいる駐車場に駐車する。
- 車から離れる際は、車内に荷物を残さない。たとえ貴重品でなくても、車外から車内の物が見えれば、ガラスを割られて盗まれる可能性がある。泥棒にはその物が貴重品かどうかは盗んでみないと分からない。
- やむを得ず車内に荷物を残しておく場合は、トランク内などの車外から見えない場所に移す。その際も、誰かに見られていないか用心する。
- パーキングメーターの支払い、ガソリンスタンドでの給油等、たとえ短時間の駐停車であっても、車から離れる場合は必ずエンジンを切りドアをロックする。
- 車の乗り降りの際は、周囲に不審者がいないか確かめる。ドアを開けた瞬間を狙う強盗もいる。
- 近距離の用件であっても、子供を車内に残したまま車両から離れない。  
(車を狙った強奪事件で子供が巻き添えになる事件が発生している)

#### (4) 最近増加している犯罪への対策

##### ア ID窃盗

米国ではクレジットカード及びデビットカードが広く普及しており、大変便利ですが、他方、カード情報がさまざまな手口で盗み出され、悪用される ID 窃盗の被害が増加しています。こうした被害を防ぐためには、情報漏洩を未然に防ぐ対策を講じることが必要です。

- デビットカードやクレジットカードの暗証番号を設定する際は、容易に推測できるようなもの（誕生日、電話番号等）は避ける。
- フィッシング詐欺に注意し、電話やインターネットで個人情報を聞かれた場合は、安全性に確証が持てない限り、絶対に教えたり入力したりしない。
- 郵便物を出すときは、郵便局等のポストを利用して確実に投函し、また、自宅の郵便受けから郵便物が盗まれないよう、鍵付きの郵便受けを使用する。
- レシート、銀行口座明細、クレジットカード明細、小切手等の個人情報が含まれた書類等を捨てるときは、復元できないように、細かく破るか、シュレッダーにかける。ゴミ箱をあさって、個人情報を盗んで転売する泥棒もいる。
- クレジットカードやデビットカードの明細は、こまめにチェックし、不正な利用がないか確認する。
- ソーシャル・セキュリティ・カードは、持ち歩かない。
- パソコンにはウィルス対策ソフトを導入し、常に最新の状態に保つ。
- インターネットを利用する際は、ファイアーウォールを確実に有効にし、不正侵入されないようにする。
- 心当たりの無いメールに記載されたリンク先や添付されたファイルを開いた



り、プログラムをダウンロードしない。

- パソコンを廃棄する場合、ハードディスク内の個人情報を完全に消去する。

#### イ 振り込め詐欺

日本では振り込め詐欺の被害が多発していますが、米国においても電話やインターネット、手紙を利用した様々な詐欺事件が発生していますので、ご注意ください。

最近発生した事案や過去に起こった事案は次のとおりです。

#### 【事案A】日本の税関職員を騙った詐欺

日本の税関職員を装い、「あなたが日本に送った荷物の中から、覚醒剤が見つかった。」等と嘘を言い、被害者が、個人情報の提供や現金の振り込みを拒否しても、警察に通報すると脅したり、繰り返し電話をかけて信じ込ませようとしたりします。さらに、偽電話を補強するために、詐欺グループが警察官や麻薬取締局員を装って電話をかけてきたりするケースもあります。

#### 【事案B】米国警察官を騙った詐欺

米国警察官を装い、「あなたの口座が、犯罪組織に使われている関係で、あなたも犯人グループの一人として逮捕される可能性がある。」と嘘を言い、逮捕されないため、あるいは保釈金として、金銭を要求されています。相手は、「電話はつないだままにしておくこと。」と切斷させないようにして、誰かに相談することを物理的に阻止しようとしします。また、銀行員や弁護士、裁判所職員を装う者が電話を代わり、逮捕が間近であると信じさせようとしてきます。

### 3 交通事故対策

米国は車社会であり、車の運転は日常生活を送る上で必要ですが、非常に多くの交通死亡事故が発生しています。また、飲酒運転に起因する交通事故も多く発生していますので、運転にはくれぐれもご注意ください。

#### (1) 運転の際の留意事項

ア 日本との交通ルールの違いを理解する。例えば、米国においては多くの州で、赤信号においても、標識で禁止されている場合を除き、安全が確認できれば右折できる。

イ 速度の出し過ぎには十分に注意する。特に、高速道路では大型トラックが頻繁に通行しており、無理な追い越しは大きな危険を伴う。

ウ シートベルトを必ず着用する。万が一事故に遭った場合、シートベルトを着用していたか否かで、生存率が大きく異なる。

エ シカゴ市内における運転中の携帯電話の使用禁止

シカゴ市内では、911 番などの緊急番号に通話中の者を除き、携帯電話を手に持って使用しながら運転することが禁止されている。通話する際は、安全な場所に停車して行う。どうしても運転中に電話に応答する必要があるときは、外部スピーカーやマイク付イヤホン等のハンズフリー機器を使用する。

オ イリノイ州における運転中の携帯電話操作の禁止

イリノイ州では、運転中に携帯電話を操作することが禁止されている。州当局

は、運転中の携帯電話操作は違法なだけでなく、危険であると警告している。

※ 米国においては、各州、各自治体で法律が異なるため、お住まいの地域で運転中の携帯電話の使用が禁止されているかどうかは確認していただく必要がありますが、禁止する法律の有無にかかわらず、運転中の携帯電話の使用はどうしても注意散漫になりやすいので、使用を控えるようにしてください。

#### (2) 飲酒運転について

イリノイ州を含む米国のほとんどの州においては、21歳以上で血中アルコール濃度が0.08%以上（営業車の運転手は0.04%以上）の場合違反となっています。21歳未満は僅かな飲酒でも違反となります。また、16歳未満の未成年者が同乗している場合は悪質な飲酒運転と見なされます。さらに、イリノイ州においては、栓の開いたアルコール飲料を車両内に置いて運転した場合、たとえ飲酒していなくても、罰則は最高1,000ドルの罰金及び1年間の免許停止となっています。また、飲酒した状態で鍵を持って運転席に乗り込んだ時点で、まだ運転していない状態であっても飲酒運転が成立します。「ある程度の飲酒は大丈夫」という認識は誤りです。たとえば、BAC検査値（血中アルコール値）が基準以下でも、正常な運転ができないと警察官に判断されれば検挙されます。

飲酒運転で検挙された場合、警察に逮捕・拘留され、免許停止、車両登録の禁止、罰金等非常に厳しい措置がとられます。このほか、裁判費用や自動車保険の保険料が跳ね上がる等、飲酒運転をしたがために被る精神的、金銭的不利益は大きく、さらに飲酒運転により、人身事故を起こした場合、取り返しのつかないこととなります。

酒気を帯びると正常な判断能力が低下することは科学的に立証されており、飲酒しての運転は非常に危険です。在留邦人の皆様におかれては、普段から安全運転を心掛けておられることと思いますが、改めて「飲んだら乗らない」を厳守して、飲酒運転を行わないようお願いします。

#### (3) 冬の運転の留意事項

ア 路面凍結時は、急ハンドル、急ブレーキ、急発進等、「急」の付く操作はしない。

イ 冬期から春先にかけて、道路にしみこんだ水の凍結が原因で道路がひび割れし、道路に大きな穴が空くことが多いので、道路状況をよく見て運転する。特に見通しの悪い夜間は要注意。

ウ 厳冬期に車が故障し、動けなくなると、凍死等生命の危険にさらされるおそれがあるため、携帯電話及び車載充電器を携行し、万が一に備える。また、燃料は常に半分以上入れておく。バッテリー上がりに備えて、ブースターケーブルを積載しておく。防寒着や毛布を積んでおくと、万が一のときに役に立つ。

エ ブリザードの予報が出たときは、ブリザードが到達する前に運転を終えられるよう、余裕を持って帰宅する。ブリザードに巻き込まれると、道路が閉鎖され、動けなくなる可能性がある。

#### (4) 交通事故発生時の措置

ア 負傷者がいるときは、911番に電話して救急車を呼ぶか、他の車を止める等し

て救急車に連絡してもらおう。負傷者を動かせると判断できれば、安全な場所に避難させる。

イ 事故車両が交通の妨害になっている場合には、当事者同士が事故の場所を確認した上で、車を路肩側に移動させる。この際、双方の車両の位置と車の衝突個所に印を付けるか、写真撮影、スケッチ等をして現場の再現ができる措置をとる。ガソリンが漏れている等の危険な状況であれば、車両の移動はさせず、当事者全員が遠くに避難する。

ウ 目撃者がいれば確保しておく。

エ 911 番に電話して警察に通報し、現場検証を依頼する。

オ 車のトランクを開け、事故車であることを他の車に分かるようにし、追突等の二次事故を防止する。

カ 事故当事者同士は安全な場所に移動し、お互いに運転免許証や身分証明書等で相手の氏名、住所、電話番号、勤務先、車両登録番号、保険会社名、証券番号、保険会社の連絡先などをメモする。その際、相手の書類にサインしたり、自分の過失を認める言動をしたりしない。

キ 保険会社に電話し、手続きについて指示を受ける。

ク 警察官が到着後、当事者双方が現場検証に立ち会う。

(5) パトカーに停車を求められた場合

ア 安全を確認し、速やかに道路脇へ停車する。

イ パトカーがあなたの車の後方で停車したときは、警察官が出てきてあなたに近づいて来るまで待つ。警察官は、まず車のナンバー等について警察署に報告等を行ってから出てくるため、数分から 10 分くらい待つ必要がある。その間、自分から車を出てパトカーに近づくことは警察官への敵対行為と見なされるおそれがある。

ウ 武器を所持していると誤解されないように、両手はハンドルの上に置いたままにし、勝手にダッシュボードを開けたり、鞆を開いたりしない。

エ 警察官の指示に従い、質問に対して協力的に対応する。

#### 4 法律・習慣の違いによるトラブル

日本ではほとんど問題とならない行為でも、米国では犯罪として厳しい処罰の対象になることがあります。特に家族や子供に対する考え方が日米で大きく異なりますので、十分注意してください。

(1) 家庭内暴力 (Domestic Violence : DV)

ア 夫婦喧嘩や親子喧嘩であっても、周囲に聞こえるような大声を上げたり、騒いだりすることは、隣家から家庭内暴力 (ドメスティック・バイオレンス) と捉えられ警察に通報されることがあります。

米国においては、家庭内暴力に対して日本と比較にならないほど厳しい施策がとられており、当事者双方の意思と関係なく、当事者が逮捕されることがあります。

イ 被害に遭った場合、一番大切なのは、ご自身及び子供の身の安全です。被害を

受けたときは、DV 支援団体等に相談し、身の危険を感じたときは、躊躇することなく 911 番に電話し、警察を呼んでください。また、当館においても相談を受け付けていますので、一人で悩むことなく、電話で結構ですので、総領事館にご相談ください。自分では DV 被害に遭っているかどうか分からないという場合でも、配偶者や交際相手から身体的、精神的な暴力を受けたという方は、一度ご相談ください。もちろん、プライバシーには十分配慮いたします。匿名でも結構です。

ウ 警察を呼んだ場合、通常、警察は仲裁等を行わず、現在そこにある危険を排除するため、加害者を逮捕、拘束します。その後、いつ釈放されるかは事案の内容によりますが、釈放後も多くの場合は裁判所から接近禁止令が出され、加害者は被害者に近づくことを禁止されます。配偶者や交際相手が逮捕されることに抵抗を感じ、警察への通報を躊躇される方もいるかもしれませんが、身を守るためには警察への通報が一番の方法です。また DV を事件化することは、後に離婚、子の親権に関する裁判に発展した際に重要な要素となります。

エ 米国では、各地に DV 支援団体があります。まずは、全米 DV ホットライン  
National Domestic Violence Hotline 1-800-799-7233,  
<http://www.thehotline.org/>

にアクセスして、最寄りの相談所、シェルターの紹介を受けることをお勧めします。同ホットラインでは、英語が堪能でない方のために外国語による相談も受け付けています。DV 支援団体では、法的アドバイスを受けることや弁護士の紹介を受けることも可能です。

## (2) 児童虐待について

ア 「児童虐待」に関する規定は各州によって異なりますが、イリノイ州では、6 歳未満の子供を車両内に監護者なしで残すことは法律で禁止されており、6 歳以上であっても、客観的にみて危険性があると判断される場合は、児童虐待等として警察に通報される場合があります。

イ イリノイ州をはじめ多くの州では、小さな子供を家に一人を残すことを法律で禁止しています。常識的に自分自身で適切な判断・行動ができる年齢までは親の保護が必要と考えられています。特に、14 歳未満の子供を家に一人を残した際に、子供の身体や精神に危険が発生した場合は、育児放棄または児童虐待の容疑がかけられることがあります。子供を一人で留守番させることができる目安は、どのような事態が発生しても子供自身の判断で身を守る、保護を求める等適切な行動を取ることができることです。911 番への通報や警察官、その他の人に対して、英語で適切な対応ができることは最低条件といえます。

ウ 上記以外にも、公衆の面前で子供に対して大声を出すなど過度と捉えられる叱り方は虐待行為と見なされ、また、たとえ子供が小さくても父親が娘と一緒に入浴したり、入浴中の写真を撮ったりすることは性的虐待行為としてそれぞれ処罰の対象となる可能性があります。

## (3) 子の親権問題

子供がいる家庭において、DV 被害から身を守るため、あるいは婚姻生活が破綻

したため、子供を連れて日本に帰ろうと思う方もいるかもしれませんが、米国においては、他の親権者の同意なく子供を国外へ連れ出すことは、誘拐罪や子の親権妨害罪等に問われ、逮捕されることがあります。実際に邦人が逮捕されたケースも発生していますので、この点十分にご留意ください。子供を連れて日本に帰ることを希望する場合は、まず弁護士等に相談してください。

#### (4) 少年夜間外出禁止令

米国の多くの都市では、少年夜間外出禁止令（Curfew）が制定されており、一定の年齢未満の少年が、規制された時間帯に保護者（保護者に託された者を含む）が同伴せず外出していた場合、違反となります。また、事情を知らず少年を外出させていた保護者も違反となります。

違反者には罰金（シカゴでは 500 ドル以下）、または社会奉仕、あるいは、その両方が課されます。夜間は昼間に比べて犯罪が多発しており、少年が犯罪に巻き込まれる可能性が非常に高いので、外出禁止令の有無に関わらず、お子様達を単独で外出させないようにご注意ください。

規制時間帯は都市によって異なりますので、詳しくはお住まいの町の条例をご確認ください。

#### (5) イリノイ州における大麻合法化

2020 年 1 月からイリノイ州では大麻（マリファナ）の所持、使用が合法化されました。しかし、日本の大麻取締法では大麻の所持は違法であり、日本国外でこれらが行われた場合であっても処罰の対象になる場合もあります。在留邦人や日本人旅行者の皆様はこのことに留意し、日本国外であっても大麻に手を出さないよう十分ご注意願います。

### III テロ、大規模自然災害等緊急事態発生時の対応

米国において緊急事態として予想されるものには、テロ、ハリケーン、竜巻、集中豪雨、ブリザードなどがありますが、これらに対する皆さんの安全対策は万全でしょうか。身近な犯罪には安全対策を講じていても、自然災害への対応は十分でないこともあります。自然災害は全く予想できないこともありますので、日頃からその対応策を考えておく必要があります。

#### 1 在留届の提出

##### (1) 在留届とは

海外に 3 か月以上滞在される方は、滞在先を管轄する在外公館（大使館、総領事館）に在留届を提出することが、旅券法により義務づけられています。まだ在留届を提出されていない方は、「オンライン在留届（ORR ネット）」を利用し、お早めに提出をお願いします。詳しくは、ホームページをご覧ください。

(<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/>)

##### (2) 在留届のメリット

在留届が提出してあれば、大規模自然災害等の緊急事態が発生した際、在外公館が在留届の内容を基に皆様方に緊急メール等で連絡を行い、各種情報の提供や皆様

の安否確認を行うことができます。一方、在留届の提出のない方については、当館で所在を把握できないため、当館からの連絡や情報提供が困難になります。

### (3) 変更届

既に当館に在留届を提出されている方で、住所、電話番号、メールアドレス等の記載事項に変更がある場合は、**ORR** ネットで変更届の提出をお願い致します。また、帰国等、当地から転出される場合は、必ず転出届の提出をお願いします。

## 2 平素の準備

- (1) 家庭や職場などで、自然災害等の緊急事態が発生した場合の集合場所を予め決めておく。場所は2か所決めておく。一つは家のすぐ近くで、もう一つは近所の建物、例えば図書館やコミュニティーセンター、教会など分かりやすい場所がよい。
- (2) 自宅付近の病院、最寄り警察署、総領事館等の所在地、連絡先を予め確認（リスト化）しておく。
- (3) 緊急事態発生時に家族がばらばらになってしまったときのために、家族のメンバーが電話できる州外の友人または親類を決めておく。市内回線がつかない場合は、遠距離電話の方がつながりやすいこともある。
- (4) 家庭や職場などで、テロ・自然災害等の緊急事態を想定した訓練を実施する。
- (5) 災害時必需品の準備（別紙チェックリスト参照）

## 3 発生時の措置

- (1) 避難の指示が出された場合には、直ちに指示に従う。
- (2) 沈着冷静な行動を心がける。根拠のない「噂」に惑わされない。
- (3) 群集心理に影響されない行動を取るよう注意する。
- (4) 暴動等が発生した場合、暴徒には近寄らないようにする。
- (5) ラジオ、テレビ、インターネット等から最新の情報入手に努める。

## 4 テロ関係

### (1) テロ情勢

米務省は、米国民及び米国権益を対象としたテロ攻撃や反米暴力活動の脅威は依然として存在するとして警告を発しています。シカゴ市は高層ビルが建ち並ぶ全米第3位の都市であり、当地治安当局ではシカゴ市がテロの攻撃の対象となる可能性は、非常に高いと認識しています。

更に、**ISIL** 等の国際テロ組織が日本人を標的にすると表明したことにより、在留邦人・日系企業等が直接テロの標的となる可能性もあります。

### (2) テロ対策

ア 外務省「海外安全ホームページ (<https://www.anzen.mofa.go.jp/>)」や当地のテレビ・ラジオ・新聞等の関連記事に関心を持ち、常に最新の関連情報の入手に努める。

イ 大勢が集まる空港、駅、政府施設、スタジアム、イベント等は、テロの格好の標的になり得ることを常に心に留めておく。

ウ 不審者や不審物件を見かけたときは、直ちに 911 番に電話し、警察に通報する。

## 5 たびレジ

### (1) たびレジとは

たびレジは、3 か月未満の期間で海外旅行や海外出張される方が、旅行日程・滞在先・連絡先などを登録することで、滞在先の最新の渡航情報や緊急事態発生時の連絡メール、また、いざという時の緊急連絡などを受け取ることができるシステムです。情報を受け取るメールの宛先として、ご自身のアドレス以外にご家族や職場のアドレスも登録できます。

### (2) たびレジの登録方法

外務省のホームページから簡単に登録することができます。詳しくはホームページをご覧ください。(<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/>)

日本から海外へ行かれる方だけでなく、在留邦人の方も、当館管轄区域外へ短期の旅行や出張をされる際には、ぜひ登録してください。

## 6 シカゴ地域緊急連絡先

- 在シカゴ日本国総領事館

737 N Michigan Ave. Suite1100, Chicago, IL 60611 U.S.A.

Tel: 1-312-280-0400 (24 時間対応)

Fax: 1-312-280-9568

ホームページ : <http://www.chicago.us.emb-japan.go.jp/indexjp.html>

- 警察、救急、消防 : 911

- 警察 : 緊急時以外

シカゴ市警察 : 312-746-6000

シャンバーグ警察 : 847-895-4500

アーリントンハイツ警察 : 847-368-5300

ホフマンエステイツ警察 : 847-781-2800

- 緊急事態

イリノイ州非常事態庁 (I E M A) : <https://www2.illinois.gov/iema/Pages/default.aspx>

連邦緊急事態管理庁 (F E M A) : <https://www.fema.gov/>

国土安全保障省 : <https://www.ready.gov/>

- 外務省

海外安全ホームページ : <https://www.anzen.mofa.go.jp/>

## 別紙

### 緊急事態に備えてのチェックリスト

#### 1 旅券（パスポート）

- ☐ 6 か月以上の残存有効期間があるか
- ☐ 最終ページの「所持人記載欄」は記載しているか
- ☐ その他の写真付き ID はあるか

#### 2 現金等

- ☐ 現金
- ☐ 貴金属
- ☐ 貯金通帳、有価証券
- ☐ クレジットカード

#### 3 自動車

- ☐ 整備されているか（特にバッテリー）
- ☐ ガソリンは3分の2以上あるか
- ☐ 車内に、懐中電灯、地図等は備えているか

#### 4 携行品

- ☐ 衣類、着替え（長袖、長ズボン、吸湿性、耐暑性及び耐寒性に富むもの）
- ☐ 履き物（靴底が厚く頑丈なもの）
- ☐ 洗面用具（タオル、歯磨きセット、石けん等）
- ☐ ラジオ、携帯電話、充電器、電池（多量）
- ☐ ライター、マッチ、ろうそく、固形燃料
- ☐ ナイフ、缶切り、栓抜き、簡易軽量食器、割り箸
- ☐ 毛布、寝袋、雨具

#### 5 非常用食料

- ☐ 保存食（米、調味料、缶詰類、インスタント食品、粉ミルク等）
- ☐ ミネラルウォーター（目安：1人1日当たり1ガロン）
- ☐ 家族全員で1週間分が確保されているか

#### 6 医薬品

- ☐ 家庭用常備薬・常用薬、外傷薬、消毒薬、包帯・絆創膏、マスク